

文・写真 松澤美穂

# 地方 紀民 行鉄

東北有数の温泉地、飯坂温泉へ。  
のんびりゆつくり電車旅。  
圧巻の美術館に熱い温泉、  
飯坂電車で秋を楽しむ。

## 福島交通株式会社



「温泉に行くんだ」と言えば、成人日本人の大半は「いいなあ」と反応する。

それが寒い季節となれば、なおのこと。今回、一体何人に「いいなあ」と言われたことか。福島交通飯坂電車は福島駅から飯坂温泉駅を結ぶ路線。そう、文字通り終着駅には温泉がある。

### 温泉に向かう前に

温泉に浮かれて早々と出発したせいで、福島駅に到着したのは通勤通学の波が引いたばかりの午前9時過ぎ。飯坂温泉の共同浴場入湯券が一枚付いた「1日フリーきっぷ」を購入したものの、温泉に向かうにはまだ早すぎる。どこへ行こうか迷ったまま、発車の合図に押されて電車に乗り込む。

飯坂電車は片道23分。待ち時間を考えても、1時間程度で往復できる。とりあえず、くるっと一周してみようかと思っていたら、「この電車は、次の桜水で車庫に入ります」とのアナウンス。気付けば3両編成の車内にぼつんと二人。行き先も確かめずに電車に乗った慌て者に気付いていたのか、車掌さんに「次の電車まで、ホームのベンチでお待ちください」と優しく声を掛けられ、ありがたくベンチへ。沿線マップ「いい電見どころMAP」を広げ、改めてどこへ行こうか考える。飯坂電車の見所は、飯坂温泉の湯めぐりに、果物狩りや県立美術館などなど。温泉は後のお楽しみとして、果物狩りは一人では寂しい。寺社仏閣もあるようだけれど、季節は「芸術の秋」。

ということで、県立美術館へ向かう。

### 「芸術の秋」を堪能

県立美術館への最寄り駅は、桜水駅から5駅戻った美術館図書館前駅。駅前の数軒の住宅を通り過ぎると、並木道の先に福島県立美術館と図書館が見える。

地方都市としては大きな美術館だと聞いていたけれど、「地方都市としては」はご謙遜。信夫山を背景にした低層の美術館は、図書館と一体になっているとはいえ、首都圏でもなかなか見られない規模。建物を取り囲む広い庭園は落葉、紅葉の始まった木々に彩られ、外観だけでも十分「芸術の秋」が楽しめ、期待が高まる。

平日の午前中の美術館は人が少ない。自分の足音が気になるほど静かな館内を、行きつ戻りつを繰り返しながら、企画展、常設展とゆつくり見て回る。美術に疎い身にはなじみのない作品が多いけれど、「いいな」と感じる作品も一つ二つ見つかって、得した気分。誰もが知っている有名絵画を行列しながら鑑賞するより、気楽で楽しい。

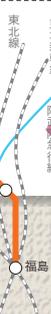
せっかくなので、図書館にも足を伸ばして、敷地全体を一巡すると、あつという間に2時間以上が経過している。これほどゆつくり「芸術の秋」を堪能したのは何年ぶりだろうと思いついていたところに、ふいにお腹がぐーと鳴り、「食欲の秋」を思い出す。

温泉に入る前に何か食べておきたい。手近なところで、美術館前の並木道の途中にあつ

## 飯坂電車

【いいざかでんしゃ】

福島駅から飯坂温泉駅まで、総延長9.2kmを23分で結ぶ。沿線住民や飯坂温泉に向かう観光客を運ぶ重要な「足」として、2014年、開業90周年を迎えた。



美術館図書館前駅は無人駅。駅舎は昭和の時代のタバコ屋さんのよう。



桜水駅の車両庫。他の駅に比べて大きくて広い。整備中の車両も停車中。

「1日フリーきっぷ」は共同浴場の入湯券付き。切り離すと楽になる。



ゆっくり走る飯坂電車は、1本の電車で数回シャッターが切れる。



上/広い敷地に建つ大きな県立美術館と図書館は、カメラのフレームに納まりきらない。右上/紅葉のはじまった庭園も広々。

た喫茶店に入店。

### 飯坂電車はスキップして来る？

喫茶店の窓の外、並木道の向こう側には、飯坂電車、阿武隈急行線、JRの線路が並走している。これぞ喫茶店といった風情の厚切りのピザトーストをかじりながら眺めていると、飯坂電車は他の二つの電車に比べゆっくり走っているのに気が付く。

すぐ近くに美術館図書館前駅があるため、スピードが落ちているだけだろうけれど、先を急いで全力疾走しているような阿武隈急行線やJRと比べると、飯坂電車はまるでスキップ。「芸術の秋」に浸りきつた頭には、メルヘンチックな想像が次々広がり、微かに聞こえる踏み切りの音や警笛さえも、軽快な口笛に思えてくる。口笛吹きつつスキップして来る電車、なんて可愛い。

おまけに、そのゆっくりとしたスピードは、写真にも撮りやすい。並木道に続く美術館の姿を写真に撮っている人の中には、ちょうどやってくる電車でレンズを向ける人もいる。あつという間に走り去る電車をきれいに写真に撮るのは、なかなか難しいけれど、スキップして来る飯坂電車なら大丈夫。スマートフォンで撮影していた女性も、きつと上手に撮れたはず。

ピザトーストを平らげ、こちらも撮影に参加。プロ使用のカメラでなくても、飯坂電車なら、通り過ぎる間に数回シャッターが切れる。電車にもフォトジェニックはいるらしい。

### 湯冷め知らずの飯坂温泉

お腹も膨れ、時間もまずまず。いよいよやって来た飯坂温泉駅前には、奥の細道の途中でこの地を訪れたという松尾芭蕉の像が立つ。そういえば、前回訪ねた伊賀鉄道の上野市駅前にも、松尾芭蕉の生誕地として像が立っていた。松尾芭蕉にご縁があるのか？

さて、飯坂温泉の共同浴場は九つ。心ひかれるのは日本最古の木造共同浴場だという鯖湖湯と、その鯖湖湯に次いで歴史の古い波来湯。まずは最古の鯖湖湯に、と思つて向かったものの、「浴槽温度47度前後」という表示に怖気つく。飯坂温泉が熱いことは知っていたけれど、47度は熱すぎる。そこで、熱い湯とぬるい湯の二つの浴槽があるという波来湯へ。

時刻は午後3時。普段なら仕事中の時間帯にお湯に浸かる、後ろめたいような優越感。とはいえ、波来湯のぬるい湯でも42度あり、そうそう長くは浸かってられない。出たり入ったりの繰り返しにも限界がきたところで浴場を出て、温泉街を散策。

湯冷めしてきたら別の浴場に向かおうと思つていたのに、いつまでたっても身体はポカポカ。熱いお湯にしっかり浸かる気になれず、ひとまず足湯に浸かってみれば、湯冷めする気配は一向になく、足はぐんぐん染になり、飯坂電車の総延長9.2キロが歩けそうな気がするまで、歩き出す。

きつと、いや確実に途中で疲れてリタイアするだろうけれど、大丈夫。「1日フリーきつぷ」でパツと戻れば、温泉が待っている。



鯖湖湯には松尾芭蕉が訪れたとか。



木造の共同浴場、鯖湖湯(左)と波来湯(右)。どちらも風情がある。

